

医療法人財団 織本病院 広報誌

月刊 織本

3

2018年3月1日 vol.283

発行 医療法人財団 織本病院
 印刷 〒204-0002
 東京都清瀬市旭が丘 1-261
 TEL 042-491-2121
 URL <http://www.orimoto.or.jp/>
 発行人 高木 由利



スギゴケ

認知症サポート医研修から ～ 認知症と生活習慣病 ～

理事長 高木 由利



寒くても春らしい陽ざしの日が増えてきました。私の家のウッドデッキでは、お花屋さんから頂いたヒヤシンスの花が咲き、何とも言えない香りが私を楽しませてくれています。

* * *

2月17日（土）、新宿で東京都医師会主催の“認知症サポート医研修会”が開かれました。午前中の診療を終えた300人近い東京中のドクター達が認知症の医学を学び、早期介入し理解していこうと4時間近く学習するという研修会でした。

私は開始時間より早めに会場に入れたため、最前列の席を確保できました。今回学んだことで一番大きなことは、認知症発症に日々の生活習慣、そして生活習慣病が大きく関与していることでした。

65歳以上の糖尿病患者における認知機能の低下には目を見張るものがあります。なぜ糖尿病の方は認知症になる確率が高いのか、今様々な分野での研究がなされていますが、① 高齢 ② HbA1cが高い ③ 糖尿病の罹病期間が長い ④ インスリン治療例が多いなどが挙げられていました。また、糖尿病学会で着目されている低血糖⇔高血糖の繰り返しは、糖尿病の悪化だけではなく認知機能の低下をきたすことが明らか

にされていました。つまり、① 平均血糖値を下げる ② 低血糖を避ける ③ 日々の血糖値の日内変動を小さくすることが糖尿病患者の認知症予防にとっても大きく関与しているというお話しでした。

私はここまでの話しを聞いて少し疑問に思ったことがあります。それは糖尿病を早期発見するために、少しでも疑いのある方々に積極的にブドウ糖負荷試験を行う。そして、糖尿病を発症した方に徹底的生活習慣改善の指導（① 体重コントロール〈減量〉の重要性、② どのタイミングでどのような運動を組み入れるか、③ 食事はどの位の量をどのように食べるか）をする。このことについての話しが全くないのです。今、最も大切なことは、糖尿病を含む生活習慣病を予防するための具体的対策を全ての医療機関が行うことだと思ったのです。認知症が発症してからでは遅すぎるからです。私の外来では、既に様々な生活習慣病を発症した方々がたくさん通院されています。この方々に自分の生活習慣を変えるためにはどうするかを具体的に指導していますが、どこか他人事と思っている方が多いのはなぜでしょうか。「認知症だけにはなりたくない」とおっしゃる方が多いことを考えると、自分の努力不足が認知症に向かって日々歩む道だと気付いたら、気

を取り直して改善できるように思います。

今から自分の生活習慣を変えませんか。肥満にさよ

ならして、日々減量を行って生活しませんか。

長い間、ありがとうございました。

乳腺外科 花岡 建夫



45年前、千葉大学から三鷹の杏林大学医学部に赴任してきました。しばらくして、多摩地区の城西外科研究会が織本病院で開催されるとのことで出席しました。研究会終了後、織本院長先生（現理事長の父上）にお会いし、先生は大学の10年先輩であることを知りました。その関係から、週に1日織本病院で診療することになりました。

* * *

終戦の頃、結核は日本の国民病と言われ、清瀬はその治療機関が多く、結核のメッカと言われていました。当時は、貧しい人も多く左翼的活動も盛んで、病院内でトラブルが多発したので、病院は患者を入院させる際、嚴重な思想チェックをした時期もありました。織本先生は何主義の患者であろうとも病気の治療は拒まない方針でしたので、紹介患者が続々と集まり、大変な努力をされました。私が来るようになった頃は、化学療法が結核に有効になり患者が減少したので、それに伴い結核治療病院も減少して一般病院に変わる時期となっていました。織本病院も一般病院に変わりつつありました。

現在4階にある人工透析センターは「カジノ」と称する回復中の結核患者のリハビリテーションセンターでした。そこで私は50歳代の患者と親しく話すようになりました。呼吸不全があり、苦しそうに話してくれました。「先生、私は何のために生まれてきたのかわからないです。小学生の頃結核にかかり、ずっと病気との闘いでした。青春時代もなく、今結核は良くなっていますが呼吸不全で体を充分動かせないのです。」と涙を流しながら訴えていました。大学で消化器専門に外科をやっている、このような一生苦しんでいる人を診ることがなかったので、どうしたらこのような患者を減少させることが出来るかを深く考えさせられました。他にもこの織本病院の患者から学ぶことは

多くありました。内視鏡技術もなかった半世紀程前になりましょうか、循環器専門医が数年間定期的に診ている患者で末期胃癌が発見されたことがあり、織本先生から「専門の心臓だけ診ていて胃癌がわからなかったのは医師として失格で、医師は常に体全体を診なければいけない」とのお話を聞き、私自身も反省させられました。それ以後、私は若いドクターには常にそのことを教えるようにしています。専門医は専門のことを常に勉強しなければいけません、専門外のことにも注意をはらって診ることは必要です。しかし、自分ではこれ以上のことはわからない限界も知らなければいけないと思います。医師は一生勉強が必要です。

織本病院では、経済的な面だけでなく大学での教育のあり方、医師としての考え方について学ぶことができ、大変感謝しています。織本先生は84歳で亡くなられ、お別れの会がオリモトホールで行われました。このことを忘れることはできません。私は3月で85歳になります。織本病院で電子カルテの導入が決まり、ここでの診療を終えることになりました。長い間私と関係のあった患者さん、私を支えて下さった病院のスタッフの皆様深く感謝いたします。皆様、どうぞお元気にお過ごし下さい。ありがとうございました。



花粉症は 早めの対策が 必要です



内科・糖尿病外来

佐藤 潤一
さとう じゅんいち

花粉症は
種々の花粉が

原因で起こるアレルギー性鼻炎の1つで、年々増加傾向にあります。最近の調査では東京都民の48%がスギ・ヒノキの花粉症を持っていると報告され、「都民病」とも言われています。

スギやヒノキの花粉の飛散量（花粉が飛び散る量）は、前年夏の気温、日照量、降雨量などの気象条件に影響されます。関東地方では例年2月中旬ごろ



来ると言われています。なお、立体マスクなど顔にフィットして隙間のないマスクがより効果的です。また、メガネをかけると目に入る花粉の量が40%程度減ると言われており、花粉用のメガネやゴ



の飛散開始の1~2週間前より抗アレルギー薬を飲み始めることが大切です。

花粉症の三大症状はくしゃみ・鼻水・鼻づまりです。その他、眼・のど・皮膚のかゆみ、涙が出たり眼の充血、倦怠感など様々な症状が現れます。本格的に花粉が飛散している時期はマスクを着用しましょう。マスクを付けることで、花粉を吸い込む量を1/3〜1/6くらいに減らすことが出来ると言われてい

るから花粉の飛散が始まりますが、その僅かに前から少量ですが花粉が飛んでいると言われます。そのため、花粉症の人は花粉

ーグルは花粉量をさらに減らす効果があります。また、綿や化学繊維など花粉が付きやすい素材の衣服を選ぶことも屋内に持ち込む花粉の量を減らす効果があります。さらに、外出から帰った時は、先ず髪や衣服の花粉をはらい落とし、次に手洗い、うがいで花粉を洗い流すことを習慣付けましょう。眼や鼻の症状が酷い場合は眼や鼻を洗うことも有効です。



そのような対策を行っても症状が強い場合は、点眼・点鼻薬などの局所療法や、内服薬の追加・変更も必要になります。なお、その場合は自己判断せずに内科・眼科・耳鼻咽喉科など専門の医療機関を受診することが必要です。

なお、スギ・ヒノキ以外にも花粉症を起こす原因はおよそ60種類もあります。花粉症は突然発症しますので、今まで花粉症がなかった人も花粉症が疑われる症状が出た場合は早めに医療機関を受診して検査や治療を受けるようにしましょう。

当院では2/19より 電子カルテを導入しました！



従来のオーダリングシステム導入から7年が経過し、いよいよ織本病院でも電子カルテを導入致しました。

サービス向上、質の高い医療の提供を目指し、藤木院長の指示の下、施設管理課を中心に各部署から選任したスタッフによる分科会を立ち上げ、1年程前から準備作業を進めて参りました。

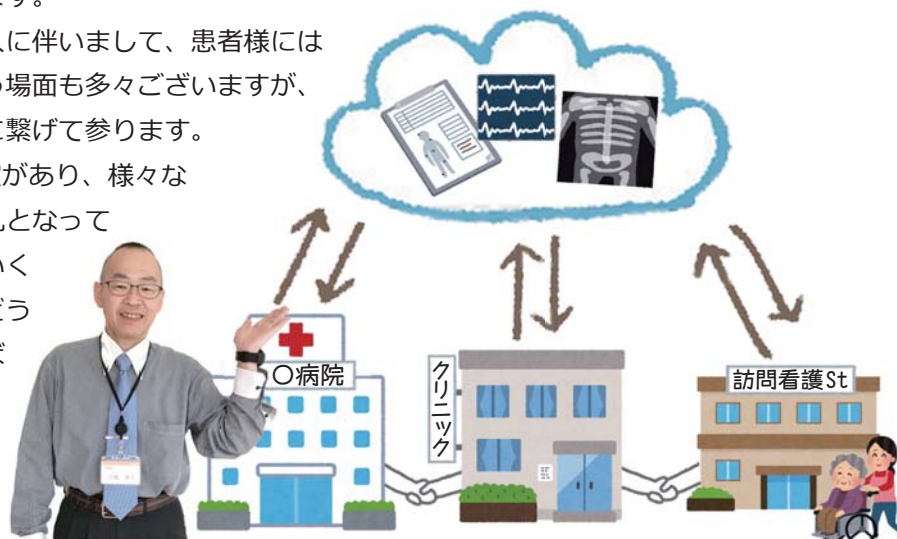
1月21日（日）には、院内全体で予行演習を実施し、患者様の導線や待ち時間などを検証し、結果、運用面における問題点が洗い出され本稼働に向けて改善に努めて参りました。また今回の電子カルテ導入に伴い、高精細のディスプレイも各診察室に導入し、レントゲンやCT、MRIの撮影結果がより鮮明に映し出され診断の信頼性を格段に上げることも可能となりました。

さらにこの電子カルテは、地域の方々に安心して受診して頂けるよう、将来、清瀬市を含む北多摩北部地域において構想されている「電子カルテネットワーク」に参加できる機能を有しております。地域において、病院での診療や在宅・訪問医療を受けられている方々の診療経過や処方データ等を、病院、診療所、訪問看護ステーション等で共有でき、切れ目のない医療を提供できるネットワークが構想されております。

現在、電子カルテの導入に伴いまして、患者様にはご迷惑をおかけしてしまう場面も多々ございますが、日々研鑽し、医療の向上に繋げて参ります。

4月には、診療報酬の改定があり、様々な変化の中、職員一同、一丸となって質の高い医療を提供していくため頑張っております。どうぞ暖かく見守って頂ければ幸いです。

事務長 倉西 哲生



第198回 腎疾患・糖尿病ゼミナール

なぜ食事療法が治療の基本なのか？ その4

検査科からのワンポイントアドバイス

腎臓内科：高木 由利

検体検査室の紹介

臨床検査技師：濱登 光

2018年4月5日（木） 午後1:00～2:00
オリモトホール（織本病院4F） 予約不要・参加費無料



豆ザイルによる
健康体操も
やって
ます！

